

令和元年7月30日

記者発表

## 燃料電池自動車「MIRAI」を導入しました

和歌山県では、このたび、燃料電池自動車の「MIRAI」（トヨタ自動車）1台を公用車として導入しました。

燃料電池自動車（Fuel Cell Vehicle、FCV）は、水素を燃料として、車体に搭載した燃料電池で発電し、電動機の動力で走る車で、走行時に二酸化炭素を排出せず、環境にやさしいクリーンな車です。約3分で水素を充填でき、航続距離が電気自動車より長いのが特徴です。



水素エネルギーは、エネルギーセキュリティの向上や温室効果ガス排出抑制につながる可能性があり、再生可能エネルギーと並ぶ新たなエネルギーの選択肢として注目されています。

和歌山県では、水素をエネルギーとして日常の生活や産業活動で利活用する社会、いわゆる「水素社会」の実現に向けて、県の基本的考え方や取組方針を示す「わかやま水素社会推進ビジョン」を本年6月に策定しました。

県では、水素エネルギーの利活用推進のため、燃料電池自動車を率先利用するとともに、水素エネルギーの意義や「水素社会」についての理解を深めていただくため、燃料電池自動車を活用して啓発を行っていく予定です。

担当者	産業技術政策課 坂下、田中
連絡先	073-441-2354（直通）